

2024年9月29日

大学入試学会第1回大会 学会企画シンポジウム

大学入試の共通試験改革に 求められるプロセスとは何か？

—大学入学共通テスト、そして、過去の共通試験改革
の失敗事例から学ぶ—

中村恵佑（弘前大学教育学部）

※発表の概要版

発表内容

(1) 大学入試の共通試験改革と教育行政学

(2) 「大学入学共通テスト」に関する政策過程分析

(3) 過去の共通試験改革の失敗事例に関する政策過程分析

(1) 大学入試の共通試験改革と教育行政学

★発表の概要

(1) では、大学入試政策の中で共通試験政策が占める位置やその分析の重要性を確認する。その上で、従来の大学入試に関する研究で分析視角として採用されてこなかった「**教育行政学**」の観点から、共通試験政策について分析が可能である点や、その意義・必要性などについて説明する。

(2) 「大学入学共通テスト」に関する政策過程分析

★発表の概要

(2) では、拙著『大学入試の共通試験改革をめぐるポリティクス—「拒否権プレイヤー論」による政策過程分析—』（東京大学出版会、2023年）に基づき、**「大学入学共通テスト」**の政策形成・決定過程を分析した結果について説明する。具体的には、政策転換・安定性の要因を説明する理論枠組みであり、教育行政学でも用いられる、Tsebelisの**「拒否権プレイヤー論」**を適用し、「大学入学共通テスト」の政策形成・決定過程に関して、同時期に検討が行われた**「高校生のための学びの基礎診断」**と比較しながら検証し、改革の帰結や共通試験政策に求められる検討過程についての示唆を提示する。

(2) 「大学入学共通テスト」に関する政策過程分析

	高校生のための学びの基礎診断	大学入学共通テスト
(I)プレイヤーの数	①国立大学(国立大学協会) ②公立大学(公立大学協会) ③私立大学(日本私立大学団体連合等) ④高校(全国高等学校長協会)	⑤文科省 ⑥首相(自民党教育再生実行本部や側近含む) ↓ センター試験の政策形成・決定過程より減少
(II)プレイヤー間の 選好の差異	高校生・大学入学者の学力保証や高大接続の改善のために、プレイヤー①～⑥が大学入試でも活用可能な高校での新たな学力テストの創設に向けた合意形成と具体案の策定を進める ⇒プレイヤー間の選好が概ね一致し、合意可能な改革案の存在する範囲が拡大	大学入試の共通試験で、思考力・判断力・表現力等の高次の能力を英語の民間試験や記述式問題の導入によって評価する改革を目指していたプレイヤー⑤⑥と、そうした改革案に懸念・反対していたプレイヤー①②③④の間の選好に差異が存在
(III)集団的プレイヤーの 結束力 ※①国立大学②公立大学③私立大学を 分析	・2000年台半ば頃、プレイヤー①②③でセンター試験・2次の学力試験の教科・科目数増加+非学力選抜の割合低下 ⇒共通試験・2次試験の多様化と異なる行動 ・一方、国公立大学でセンター試験の科目数を再び削減する動きや推薦・AO入試とセンター試験を組み合わせた入試を行うこと、私立大学で推薦・AO入試が依然拡大傾向にあること等、入試の多様化も継続 ⇒結束力がやや低下	(変化なし)
改革の帰結	高校での学力テストとして新設	英語の民間試験と記述式問題導入は頓挫 ⇒マークシート問題の改善に止まる

(3) 過去の共通試験改革の失敗事例に関する政策過程分析

★発表の概要

(3) では、過去の共通試験改革の失敗事例として、**「能研テスト」** (1963～1968年) と、**文部大臣・西岡武夫による大学入試改革** (1988～1989年) について紹介する。この二つは、大学入試における共通試験の定着や新たなタイプの試験の実施を試みたものの、その目的が果たせなかった改革事例である。この2事例について、大学入試研究で十分解明されてこなかった政策過程の分析から、改革が失敗した新たな要因を提示しつつ、共通試験改革を試みる際に必要な検討のあり方について、より具体的な示唆を提示する。